



## 活動報告

### ●第52回三県知事との懇談会

【日時】8月22日(金) 14:00-16:30

【場所】ホテル日航金沢 4階「鶴の間」

【参加】117名(会場100名、オンライン17名)



冒頭、金井会長は開会挨拶で、急激な人口減少に対応し持続可能な地域経済を構築するためには、域内外の様々な機関との連携が不可欠であり、「北陸は一つ」のもと三県一体になって諸課題に取り組むことがこれまで以上に重要になると話し、協力を求めた。

懇談では、2つのテーマについて北経連より問題提起し、馳石川県知事、杉本福井県知事、新田富山県知事がそれぞれ発言した。

#### ① 地域内連携による北陸の産業競争力強化

北経連の稲垣副会長が、スタートアップ創出やカーボンニュートラル推進に向けたプラットフォーム設立などの北経連の取組みを紹介し、域内外の多様な連携により、新事業創出・取引拡大・地域調達率向上による地域経済循環の再構築を進め、北陸産業の競争力を強化していきたいと述べた。

これを受け各知事より、成長分野での新事業・新産業創出にかかる施策や支援体制などについて紹介があった。新田知事は、政府が推進する「広域リジョン連携」に向け、三県の連携基盤を深化・発展させてはどうかと提案した。

#### ② 北陸地域での人材確保・定着・育成に向けた連携策

北経連の林副会長は、人材不足の状況はますます深刻化しており、域内外の人材から選ばれる地域となるためには、経済界と行政がタッグを組んで対応していくべき時期にきていると指摘。人材定着をはじめ、北陸が有する様々な課題について、実務者レベルで継続的に情報交換し議論を重ねていく場として、「北陸戦略連携協議会」の設置を提案し、各知事はこれに賛同した。

その後の意見交換では、事前に会員から募集した質問のなかから「地方創生に向けた北陸の強みと発信の工夫」「ウェルビーイング推進に向け重視している分野や指標」に関する知事の考えを尋ね、各知事は、「寿司などの食文化を活かした地域ブランディング戦略」(新田知事)、「若者文化や夜の文化による魅力発信」(馳知事)、「独自の子育て支援策のさらなる充実」(杉本知事)などと答えた。

最後に、金井会長が再度登壇し、活発な意見交換と「北陸戦略連携協議会」設置への賛同に対する謝辞を述べるとともに、数ある魅力ある地域資源を有機的に結合させていくことが北陸の発展には必要であり、今後はさらに連携を密にし、北陸の諸課題とともに取り組んでいくことを約束した。



(担当：宮原、宮下)



## ● 日韓国交正常化 60 周年記念事業 第 21 回 北陸(日本)・韓国経済交流会議

【日時】8月26日(火) 10:00-17:30

【場所】ANA クラウンプラザホテル金沢

【参加者】日本側) 中部経済産業局、北陸三県、関係経済団体、会員企業等 66 名、韓国側) 産業通商資源部、東部 4 自治体、駐日大韓民国大使館、韓日経済協会、経済団体、民間企業等 48 名 計 114 名

【テーマ】「日韓国交正常化 60 周年、地域経済の成長と発展に向けて～経済連携と交流の拡大～」

セッション I : 各自治体の地域活性化政策

セッション II : ①カーボンニュートラル、②女性活躍&DE&I、③港湾物流

日韓国交正常化 60 周年記念事業である北陸(日本)・韓国経済交流会議が、金沢市にて開催され、北陸三県と韓国の東海岸 2 市・2 道の自治体、経済団体、研究機関、民間企業等が参加した。

開会にあたり、金井会長と韓日経済協会の徐錫崇(ソ・ソクスン)常勤副会長が挨拶を行い、続いて中部経済産業局の寺村局長、韓国産業通商資源部の金鍾喆(キム・ジョンチョル)通商協力局長が祝辞を述べた。その後、石川県商工労働部の西村部長が開催地を代表して挨拶を行った。

元 NHK ソウル支局長、元解説主幹の出石直氏をコーディネーターとして招き、セッション I では日韓両国の自治体代表 7 名が地域活性化政策を紹介。セッション II では、①カーボンニュートラル、②女性活躍&DE&I、③港湾物流の 3 テーマについて、両国の企業・団体から 8 名が取り組みを発表した。特に、カーボンニュートラル推進に向けた協業の可能性や、港湾物流におけるクルーズ船を含めた連携強化について、活発な意見交換と質疑応答が行われた。

また、北陸 AJEC と社団法人韓日経済協会は、北

陸三県と韓国東部 4 自治体との地域経済活性化および経済交流のさらなる促進を目的とした覚書の調印式を実施。会議全体を通じて、日韓両国が共通の課題に向き合いながら交流活性化と経済連携を深めていく重要性を確認した。次回は来年、韓国南東部の経済・産業拠点である大邱広域市にて開催予定。

終了後の歓迎レセプションでは、石川県広報映像の上映や輪島の和太鼓演奏に続き、石川県の浅野副知事が歓迎の挨拶を行った。記念品交換と記念撮影の後、北陸経済連合会・高納国際委員会委員長の発声で乾杯し、参加者は和やかに歓談した。

なお、実施報告書は来月半ば頃発刊予定。



(担当：小島・成瀬)

## ● 第 28 回三経連経済懇談会・視察会

【日時】8月27日(水)～28日(木)

【場所】ホテル華の湯(郡山市磐梯熱海温泉)、  
スマートシティ AiCT(会津若松市)

【参加】63 名(北経連からは事務局含め 14 名)

【テーマ】「変化と挑戦の時代を『地域』でどう乗り越えるか」

冒頭、金井会長が挨拶を行い、第二次トランプ政権の政策に関する経済的な影響や、本日の懇談会の意見交換テーマに関連した北経連の現状と取り組みに



について紹介した上で、幅広い視点から三経連の連携・協力して取り組むべき課題について、活発に意見交換したいと述べた。

### 【意見交換（当会からの発言）】

「変わる地域、今注目の動きについて」

- ・庵副会長（能登半島地震・奥能登豪雨からの復旧・復興）

「各経済連合会の挑戦」

- ・東田専務理事（第六次アクションプランの策定）
- ・加納常任理事（東北経連への質問：タイフェックスへの出展理由、出展状況等）

「地方創生 2.0 を企業の視点で考える(フリートーク)」

- ・藤井理事（女性活躍に関する北陸での現状と我が社の取組みについて）
- ・中宮理事（地方の中堅・中小企業が人に選ばれる職場を作るために大切なこと）

### 【要望活動】

三経連としての決議を採択。本決議を踏まえ要望書を作成し、10月15日(水)三経連合同で実施予定。



### 【視察】

スマートシティ会津若松のシンボルである「スマートシティ AiCT」を視察。首都圏等の ICT 関連企業や地域の ICT 関連企業が機能移転・入居し、社

会革新の可能性を探求・検証している状況を伺い知ることができた。



※北海道・東北経済連合会の取組みについて、末尾の【特集】に掲載。

(担当：酒井)

## ●会員アンケート結果公表 「BCM に対する意識調査」

当会では、災害に強い企業基盤・地域づくりに向け、BCM（事業継続マネジメント）に対する会員の意識調査を実施した。

サプライチェーン全体での BCM の取組が、地域の防災レジリエンスを強化し、域内総生産の拡大に繋がるという認識のもと、特に、部門や組織を超えた BCM の状況に着目し、取りまとめた。

報告書は、当会ウェブサイトに掲載。

<https://www.hokkeiren.gr.jp/materials/research/2183.html>

アンケートへのご協力、また、具体的な取組みや課題等をお寄せ下さり有難うございました。

(担当：宮原)

## 今後の行事予定

### ◆会員懇談会（全会員対象）

●石川会場

【日時】10月30日(木) 14:30-18:00

【場所】ホテル金沢（オンライン併催）

【テーマ】ダイバーシティ&インクルージョン



## ●富山会場

【日時】11月28日(金) 14:30-18:00

【場所】ANA クラウンプラザホテル富山  
(オンライン併催)

【テーマ】デジタルトランスフォーメーション

## ●福井会場

【日時】2026年2月(現在調整中です)  
14:30-18:00

【場所】ホテルフジタ福井(ザ・グランユアーズ  
フクイ)(オンライン併催)

【テーマ】カーボンニュートラル

(担当：池澤)

## お知らせ

### ■金沢大学からのお知らせ(主催：日本経済新聞社) 日経 地方創生フォーラム in 金沢 開催 『能登半島地震からの復興への取り組み』

発災から1年半が経過した能登半島地震の復興の現状と課題を共有し、大学の知見と産業界の実践力を融合した連携のあり方を議論するフォーラムを開催します。能登の創造的復興に向けた新たな可能性をここから広く発信します。

【日時】9月20日(土)13:00-16:55

【場所】金沢大学 角間キャンパス  
自然科学大講義棟

【詳細】<https://events.nikkei.co.jp/74554/>

【申込】上記HP内から申し込み(受講無料)

※申し込み締切：会場聴講 9/12(金)17:00  
オンライン聴講 9/20(土)12:00

【問合せ】地方創生フォーラム事務局

(以下 URL から問い合わせ)

<https://conf1.nep-sec.jp/form/CRIhRr>

(担当：江戸、西野)

## ■TeSH からのお知らせ

### 【参加者募集】「北陸地域発グローバル スタートアップ創出に向けて」

「NEXT グローバル拠点都市」選定を受け、北陸地域発スタートアップ創出に向けた取り組みを発信・議論する場として、北陸3県を代表するキープレイヤーと首都圏の関係者が集うイベントを開催します。

【日時】9月22日(月)13:30-18:00

【場所】TIB (Tokyo Innovation Base)

【詳細】[北陸地域発グローバルスタートアップ創出  
に向けて \(2025/09/22 開催\)](#)

【申込】以下 URL から申し込み(参加費無料)  
<https://forms.gle/4Si1paSrskw85sJv7>

【問合せ】以下 URL から問い合わせ

<https://forms.gle/yfBTyagRPkZeo1UA>

(担当：江戸、西野)

## ■ツーリズム EXPO ジャパン推進室からのお知らせ ツーリズム EXPO ジャパン 2025 特別入場券希望者募集(9/27,9/28)

ツーリズム EXPO ジャパン愛知・中部北陸が愛知県で開催されます。北陸三県のブースも出展予定です。一般日の特別入場券をご用意していますので、ご希望の方は担当(高島・高橋)までご連絡ください。

【日時】9月27日(土)10:00-18:00

28日(日)10:00-17:00

※9月25日(木)・26日(金)は本券では入場できません

【場所】Aichi Sky Expo(愛知県国際展示場)

【申込】9月12日(金)までに以下担当者にご連絡ください。

・高島 [takabatake@hokkeiren.gr.jp](mailto:takabatake@hokkeiren.gr.jp)

・高橋 [takahashi@hokkeiren.gr.jp](mailto:takahashi@hokkeiren.gr.jp)

【その他】1枚につき1名様、1回限りの使用となります。

(担当：高島、高橋)



## ■中部圏社会経済研究所からのお知らせ 第23回中部社研時事フォーラム開催 『文化財を活用した地域振興』

【日時】10月2日(木)13:30-16:15

【場所】富山国際会議場(オンライン併用)

【内容】

### □基調講演

「文化と観光とまちづくりのよき関係について」  
文化庁 文化観光推進コーディネーター  
丸岡 直樹 氏

### □事例紹介

①「旅人と地域をつなぐ金沢町家宿の取り組み」  
国登録文化財 金沢町家・ゲストハウスあかつき屋代表 堀田 哲弘 氏

②「つくる人をつくる 日本遺産からはじまった井波のあらたなまちづくり」  
一般社団法人ジソウラボ代表 島田 優平 氏

③「石川県七尾市 歴史的建造物やまち並みを活かした取り組み」  
岡田翔太郎建築デザイン事務所 岡田 翔太郎 氏

### □パネルディスカッション

ファシリテーター

愛知県立大学 情報科学部 教授 小栗 宏次 氏  
パネラー

丸岡 直樹氏、堀田 哲弘氏、島田 優平氏、  
岡田 翔太郎氏

【申込】9月29日(月)までに以下 URL から申込み  
<https://www.criser.jp/seminar/>

【問合せ】公益財団法人 中部圏社会経済研究所

TEL : 052-212-8790

E-mail : [criser@criser.jp](mailto:criser@criser.jp)

(担当：高橋)

## ■日本海ラボからのお知らせ 産学連携勉強会

【日時】10月2日(木)、3日(金) 14:00-16:30

【場所】富山県立大学 DX 教育研究センター

【内容】

### □基調講演

JAIST 未来創造イノベーション推進本部  
地域イノベーション推進センター長  
准教授 中田 泰子 氏

<DAY1>

「産学連携が企業の成長を加速させる」

・富山県立大学 情報工学部 情報システム工学科  
崔 高超 氏 (ヘルスケア領域)

・富山県立大学 情報工学部 情報システム工学科  
大倉 裕貴 氏 (制御工学領域)

<DAY2>

「産学連携の今を知る」

・富山県立大学 情報工学部 情報システム工学科  
西原 功 氏、西澤 昌宏 氏 (視覚・画像領域)

・富山県立大学 情報工学部 情報データサイエンス学科  
高野 諒 氏 (進化計算領域)

【申込】9月30日(火)までに以下 URL から申込み  
<https://forms.gle/H9x3fToPouPugzTN6>

【問合せ】富山県立大学 DX 教育研究センター

E-mail : [dxc\\_info@pu-toyama.ac.jp](mailto:dxc_info@pu-toyama.ac.jp)

(担当：西野、成瀬)



## 特集

### 北海道経済連合会と東北経済連合会の取組み紹介 (8月28日 第28回三経連経済懇談会)

#### 1. 北海道経済連合会

##### (1) 変わる地域、今注目の動きについて

###### ○GXの推進

- ・北海道の強みである豊富な再生可能エネルギーを最大限に活用する観点から、洋上風力発電の早期事業化とともに、道内の送電網強化や、余剰電力を道外に供給する海底直流送電線の整備に寄与する取組みを推進。
- ・再エネを活かした脱炭素化の取組みとして、水素、アンモニア、蓄電池等の導入、さらに脱炭素電源を利用するデータセンターの誘致を促進。

###### ○次世代半導体産業の集積

- ・約2年前に(一社)北海道新産業創造機構(ANIC)を設立し、半導体産業の道内立地集積に関する道内外企業からの一元的な相談窓口として支援を実施。
- ・ラピダス社の進出を契機に、道央圏を中心に半導体、データセンターをはじめとする先端産業の集積を目指す「北海道バレー構想」が提唱され、この構想の実現に向け、今年5月に「北海道バレービジョン協議会」が設立された。道経連も事務局として参画しており、構想の実現による経済効果を全道に波及させるべく、将来ビジョンの策定や具体的な取組みの検討等に着手している。

##### (2) 各経済連合会の挑戦

###### ○北海道観光の需要創出・高付加価値化に向けた取組み

- ・多様な交通モードをフィジカル・デジタルの双方で連携し、交通利用者が北海道全域を快適に移動できる環境の整備を目的とする「北海道 MaaS」に取り組んでいる。具体的には、道内経済界が協力し「北海道 MaaS プラットフォーム」の設立や「北海道 MaaS グランドデザイン」の策定等に取り組んでいる。
- ・道内の関係団体などとも連携し、ワインツーリズムを始めとした北海道らしい高付加価値コンテンツの造成・普及を推進。

##### (3) 地方創生 2.0 を企業の視点で考える

###### ○若者・女性に選ばれる地域の創造に向けた具体的な取組例(旭川市)

- ・旭川市(人口32万人の中核市)では、市長を先頭に街づくりにデザインを取り入れるということで、単なる形のデザインだけではなく、市の仕組みづくりをデザインを利用してブランデ



イングをし、地域に人が残り外から若者・女性が来てくれる街づくりをしようということで進めている。

- ・えるぼしなどを取り入れながらいかにブランディングをしていくか。それに人が共感して初めて、所属する気持ちになってくる。会社や地域の仕組みそのものを根本からデザインする発想が必要。

## 2. 東北経済連合会

### (1) 変わる地域、今注目の動きについて

#### ○ナノテラス運用開始1年の成果と今後の展望

- ・運用開始から1年数か月経過。世界最先端の科学技術で、いろいろなことを実験を通じて詰めていける施設。国際卓越大学になった東北大学は、大きな発展が期待されている。産学連携の新しい形＝コアリション（有志連合）という仕組みで、東北大学とナノテラスを運営している財団や仙台市・宮城県が一体となって地域を応援しているという形をとっている。
- ・小企業に技術者がいなくて、お金がなくて、事業計画が作れなくても、力を合わせて実験等を通じて成果物を出していくことが可能。ナノテラスを東北全体の、または北海道・北陸からもそれぞれ企業が活用して国際競争力を高めることができなかと考えている。

### (2) 各経済連合会の挑戦

#### ○地域産品輸出に関する広域連携

- ・東北・新潟の基幹産業とも呼べる「第1次産業」を、持続可能で、魅力ある産業へと発展させていくことを目的に、「地域産品の輸出促進」に取り組んでいる。
  - ・2017年～2018年頃から、地域産品輸出に本腰を入れ取り組んできている。近年では、九州農水産物直販と連携して、宮城のサツマイモ、青森・岩手のキャベツ、山形・新潟のメロンなど、東北・新潟の地域産品の輸出を実現。
  - ・不十分な点として浮かび上がってきたのは、大きく2点あり、1点目は、ジャパン・クオリティは十分伝わっていても、その中でも、さらに強みを持つ東北・新潟産品が、十分知られていないこと。2点目は、海外からの需要・スピード感に対して、十分応えられるような体制が整っていないこと。
  - ・1点目を解決するために挑戦していることとして、東北・新潟7県と連携して、東南アジア最大級の国際食品総合見本市「タイフェックス」へ出展。
  - ・2点目を解決するために、これまでの取り組みを通じて培った各県、生産者、地域商社などの「ネットワーク」を生かして、海外からの要望に応じていく仕組みづくりを考えている。
- 東北・新潟各地の輸出に向けた取り組みを総合的につないでいく、プラットフォーム的な役割



が、今後重要になってくるのではないかと考えている。

### (3)地方創生 2.0 を企業の視点で考える

#### ○若者・女性に選ばれる地域には何が必要か（サステイナブルエネルギー開発株式会社）

- ・何が必要か、ということを端的に言えば、仕事・安心・コミュニティ・住まい・文化が充実していれば、若者・女性に限らず、地方に安心してきてくれるのではないか。
  - \* 仕事は、やりがいのある仕事、知識や技術が活かせる仕事、必要とされる仕事、がそこにあるということ。
  - \* 安心：医療・子育て・介護ができる環境が揃っていること。
  - \* コミュニティ：自分の居場所、若者でも女性でも、他所から来た人でも発言・表現の場所があるということ。
  - \* 住まい：単なる完璧な住まいというだけではなく、リモートワークが可能な住居。また、都会でも田舎でも同じように快適に暮らせる住居（ex.ウォシュレットがあるトイレなど、都会では当たり前でも田舎では当たり前ではないことが備えてあること）。
  - \* 文化：地域の祭り、コンサート、スポーツ観戦、アクティビティ等が日常的に楽しめる場所があること。
- ・大切なことは、企業や地域も、昔うまくいったことが今は必ずしも成り立っていないため、まず経営者自身が変わることが大事。
- ・人口が少なくなっているため、地産地消が成り立たなくなっている。デュアルライフやリモート・副業を、地方の零細企業も含めて受け入れていくことが必要。

#### ○若者・女性に選ばれる地域の創造に向けた具体的な取組例（NTT ドコモ）

- ・働き方の見直しが一番必要。いろいろな両立（女性にとっては特に育児）が課題。時短や育休延長等いろいろやってきたが、一番効いたのはコロナ禍でのリモートワークへの完全な切り替え。加えて、スーパーフレックス（AM7時～PM10時で好きに時間を区切る）の仕組みが整ったところ、育児や介護との両立が可能になったという声が多く聞かれた。これによって副次的に時短勤務の人がフルタイム勤務になることが多くなり、男女賃金格差の解消に結び付くことになるのではないか。
- ・管理職の働き方を見直すことで、キャリアアップの可能性を示すという順番かと思う。自分が期待をされているということと、適切な仕事を割り振り、上がってきた成果については平等に適正に評価をして処遇することが一番大切。

以上